

平成30年度第2回伊勢原市社会福祉審議会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部福祉総務課

〔開催日時〕 平成31年2月19日（火曜日）午後2時00分～3時00分

〔開催場所〕 伊勢原市立子ども科学館会議室

〔出席者〕

（委員）石塚恒夫委員、東奈美委員、佐々木つぐ巳委員、小島厚委員、石井良秋委員、秋澤孝則委員、新倉良一委員、麻生貴之委員、大杉あや子委員、山田千尋委員、秋山浜子委員、宮川進委員

（欠席）渡辺雅彦委員、松岡俊委員、橋本澄春委員、山崎一郎委員、若松操委員

（事務局）保健福祉部：小林部長
福祉総務課：三河課長、近藤主事
障がい福祉課：鎮目課長、遠藤係長

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 1人

《審議の経過》

1 報告事項

（1）第1期伊勢原市自殺対策計画について

2 その他

【会議概要（委員からの主な意見・質疑内容）】

1 報告事項

（1）第1期伊勢原市自殺対策計画について

（議長）

それでは、第1期伊勢原市自殺対策計画について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（障がい福祉課）より資料1-1第1期伊勢原市自殺対策計画（案）のパブリックコメントの結果及び資料1-2いのち支える伊勢原市自殺対策計画（素案）の説明】

（議長）

それでは、最終的な決定に向けて御意見等があればお願いします。パブリックコメントに関しても御意見がありましたらよろしくお願いします。

（委員）

パブリックコメントの関係で、自殺未遂の人の意見を取り入れるべきと御意見がありました。実際に未遂の人の意見を取り入れることは現実的に可能なのでしょうか。

（事務局）

市の方で自殺未遂の経験者を把握できるかという点、難しい部分があります。市民アンケートの中で、「自殺を考えたことがあるか」といった項目を設け、自殺を考えたことがある人の意見を取り入れています。

（委員）

分かりました。ちなみに「自殺未遂」の定義はどのようにされていますか。

（事務局）

巻末の用語解説に記載しておりますが、自殺未遂は「実際に生命を絶つ行為を行ったが死に至らなかった場合」と規定しています。

（委員）

ありがとうございます。12ページの自殺の原因・動機についてですが、おそらく動機は複数重なってくると思うのですが、このグラフは主たる原因・動機という解釈でよろしいのでしょうか。そのようであれば「主たる原因・動機」と表記した方が良いと思います。

（事務局）

こちらの記載については、自殺対策センターから提供された資料になります。確認しますので、主たる原因・動機ということであれば、表記を変更します。

（議長）

原因をはっきりさせるということは難しいと思いますので、注意を向けなければならぬと思います。他には御意見ございますか。

（委員）

計画の中で数値目標が自殺死亡率を5年間で14.0から11.9以下にするとい

うことしか書かれていませんが、具体的に5年間でどのように目標を達成していくのかということは検討されたのでしょうか。また、いろいろな事業が網羅されていますが、具体的にどの年度に何を行っていくのかというものが見えてきません。実施計画を別途整備しているのでしょうか。

(事務局)

1点目の目標については、5年間で15%削減するため、単純計算すると1年間で3%ずつ削減していくという考え方になります。

2点目の個別施策の管理は、各事業の実績評価を行うようにしています。

(委員)

計画の進行管理にPDCAサイクルを回すと書いていますが、具体的に年度の目標がはっきりしていない中でどうやってPDCAサイクルを回すのか気になりました。計画書に掲載されている事業は、自殺対策のためだけに行われているものではなくて、いろいろな目的で行われている事業を計画に位置付けているのだと思います。事業を網羅するだけではなくて、きちんとした進行管理を行っていただければと思います。

(議長)

このことに関連して「伊勢原市自殺対策計画推進委員会」はどのように活動されていくのでしょうか。

(事務局)

伊勢原市自殺対策計画推進委員会では、年に1回委員会を開催する予定でございます。それぞれの事業の取組について各担当課から実績報告を受け、次の年に向けて点検評価を行う予定です。

(委員)

自殺対策の効果を検証するのに、実際にあった事例を検証することは可能でしょうか。

(事務局)

自殺対策は日々の地域づくりの一環になると思います。最終的に自殺してしまった人に対して、日々の対応をどのようにすればよかったかということについては、ケースによっては、検証は可能かと思います。

(議長)

自殺が実際に起こったとき、検証はすぐ行わないと見直しする意味が薄れてしまうような気がします。迅速に自殺対策計画推進委員会に反映させる体制はお考えでしょうか。

(事務局)

自殺対策計画推進委員会は、計画の策定、事業の進捗管理、計画の執行のために必要な事項を決定することが主な役割となっており、実際に起きた事例をもとに計画の修正等に反映することは可能だと考えております。

日々のケース、困難事例などが出てきた場合は、関係機関で協議して支援していくという体制はありますので、まずはそのような形で検証していきたいと考えております。

(委員)

個人情報の問題もありますが、自殺の予防に役立つのであれば事例を共有していければと思います。

(委員)

事業所の利用者の中に希死念慮を訴える人は多くいます。しかし、どこにも繋がっていない人もいますので、関係機関や事業所を使って、拾い上げるようにしていただければと思います。

希死念慮を訴える人の数や理由について、事業所は聞き取りしたものを記録しているので、どのような訴えがあるかを行政にも把握していただきたい。逆にもっと事業所を使って、そのような意見を取り込んでほしいと思います。

(事務局)

自殺未遂の人の意見を聞くというのは、難しいかもしれませんが、今お話いただいたような、事業所で把握していることについての情報収集については今後検討材料としていきたいと思います。

(委員)

希死念慮を持った時に何を必要としているかということについては、信頼関係を築いている事業所ならできるのではないかと思います。

(議長)

他の委員さんはいかがでしょう。

(委員)

成人に比べると若年層の自殺が多いということで、今朝のニュースでもいじめの問題や、地方でアイドルグループ活動の過労が原因で自殺した人の話がありました。

本人がなかなか発することができないということもあるかもしれません。子どもへの対策ということで、「学校教育における道徳の充実」や「リーダーを養成する」と記載されていますが、今後道徳教育を充実させてほしいということと、リーダーの養成とはどのくらいの期間でどれだけの育成を行う予定なのかという2点をお聞きしたい。

(事務局)

子ども・若者の健全育成の推進として、ジュニアリーダーという組織があり、リーダーとなる子どもたちを育成する事業を青少年課で行っております。こういった形で自殺予防に繋げていくかということ、リーダーの子どもたちを中心に異変に気づけるようにしていきたいと考えています。

(副会長)

66ページに自殺対策担当と書かれていますが、どちらの課が担当でしょうか。

(事務局)

現在は障がい福祉課が担当課となっております。

(副会長)

地域の中で自殺の恐れがある人を発見したときなど、市への連絡体制はどのようにすればよろしいのでしょうか。

(事務局)

自殺の原因には、日常の困りごとがあるはずだと思います。自殺の恐れのある人の困りごとがどのようなものかによって、まずはその困りごとに直接関係のある課に相談していただければと思います。そこから、横の繋がりで関係課に繋げていきたいと考えています。

(副会長)

最近では自治会に入らないという人も増えているので、地域のつながりは大事だと思うので、そのような方面でも市のバックアップ体制を整えていただければと思います。

(事務局)

ゲートキーパーという、話を聞いて繋いでいくという意識をもった人を増やすということと、どのように支援ができるかという啓発を地道にやっていくしかないと思います。

(議長)

そろそろ時間となりますので、いただいた御意見をまとめますと、計画を具体的に進める手順やケースの検討、実際に困っている人へのメッセージ性が弱いのではないかという御意見だったかと思います。計画全体を見て、自殺を防ぐための周りの対策をどのように立てるかということに関してはいろいろと案が盛り込まれていましたが、現実的にそのようなリスクを背負った人に対するメッセージが上手く伝わるようにしていただきたいと思いました。

パブリックコメントの御意見に「自殺という言葉が怖いので使わない方がいい」と

いうものがありますが、計画の中に「自殺」と「自死」と使い分けがされているのですが、一般的にはこのような言葉の意味も知られていないのかと思います。

少しでも困っている人にメッセージを送るということが重要になってくるのではないかと思います。

それでは事務局にお返しいたします。

(事務局)

事務局から連絡事項です。本日御審議いただいた伊勢原市自殺対策計画については、冊子版が完成したら郵便にて送付します。

また、来年度の社会福祉審議会については、議題となる案件があり次第、日程調整等御連絡させていただきます。

それでは閉会のあいさつを新倉副会長にお願いします。

【副会長閉会挨拶】